

【一】

問一

④

ウ

⑤

イ

③

ア

問二

(例) 堤の下から急に現れた男の、和雄をにらむ目つきとその姿の異様さにとてつもない恐怖を感じ、それに体が支配されてしまったから。

問三

エ

問四

(例) 男の言葉を聞いて、無限の空を自由に飛び回る小鳥を網にかけて自分の手で獲ることができるのだと知り、これまで考えもしなかったその素晴らしい思いつきに感動している。

問五

エ

問六

ウ

問七

ア

問八

ア

問九

ウ

問十

(例) 自らのさびしさを雀でまぎらわしている男と関わっていると、病気の父親も、たくましくあろうとしている自分も、男と同じつまらない人間になると思ったということ。

問十一

(例) 和雄は、病気で弱った父にももの足りなさを感じ、野原で出会った男に父にはない強さを感じてあこがれていた。しかし、雀を食べずに飼おうとする男の姿に失望したため、実際に雀を食べた経験があり、病気から回復しつつある父こそが、野生の鳥を食べて生き抜く強さを持った人間ではないかと考え、期待している。

問十二

(解答作成のための指針) 文章中の49行目～73行目をふまえ、和雄の「野生」のとらえ方(和雄にとって「野生」とは何か・「人間にだけできる生きるための条件」とは何か)を説明した上で、タイトルが『野生』である理由について、自分の考えを述べる。

【二】

①	玉条	②	裏面	③	湯気	④	招待	⑤	批判
⑥	干潟	⑦	真面目	⑧	感傷	⑨	供述	⑩	車窓

※ 評 点

受 験 番 号
氏 名